

ISM メーリングリスト 標準書式

1. 総論	1
2. 例示	2
2.1 注の入れ方	2
2.2 欧文特殊文字の入れ方	2
2.3 数式の入れ方	3
2.3.1 文書的表記法 (例)	3
2.3.2 JIS (例)	3
2.3.3 LaTeX (例)	3

1. 総論

[全般] 止むを得ざる合理的な事情がある場合を除いて、本文にはプレーンテキスト¹⁾を用いる。また、止むを得ざる合理的な事情がある場合を除いて、添付ファイルについては、これを用いない。

[改行] 本文は原則として全角 35 字程度で改行する。

[引用] 引用記号としては、“>” (前後スペース無し) を推奨する。

[コード]: コードについては、差し当たって、エロ・グロ・ナンセンス・人種差別・ゴミなどが想定される。複数選択は可である。もしこのリストに適切なコードがない場合には、発言者が命名する。

[禁則] 禁則については、追い出しを推奨する。

[行頭] 行頭には全角スペース “ ” を挿入する。

[注] 注を示す記号は “[*n]” である。注を挿入する場合には、文中と注の行頭とに [*n] を挿入する。ここで “n” は注番号である。本文から明確に区別するために、注は全角 50 字以内で改行する。注の一段落目には、一行目の行頭に全角スペース “ ” を挿入しない。注の二段落目からは一行目の行頭に全角スペース “ ” を挿入する。注は本文の段落の後に、一行空けて、挿入する。注と注との間は一行空ける²⁾。

[欧文特殊文字] 欧文特殊文字については、通常の ASCII 文字での表記法、JIS で定義された文字、あるいは LaTeX のコマンドを用いる³⁾。

[数式] 数式については、通常の文書的表記法、JIS で定義された文字、あるいは LaTeX のコマンドを用いる。(特に、LaTeX のコマンドを推奨する)⁴⁾。

-
- 1) プレーンテキストについては、“ご注意ください” のページを必ずご覧ください。
 - 2) 「2. 例示」の「2.1 注の入れ方」をご覧ください。
 - 3) 「2. 例示」の「2.2 欧文特殊文字の入れ方」をご覧ください。
 - 4) 「2. 例示」の「2.3 数式の入れ方」をご覧ください。
-

[機種依存文字] 機種依存文字¹⁾については、これを使ってはならない。

[中罫] 和文の中罫 (dash, Gedankenstrich) としては、JIS コードの中罫線 (すなわち JIS の 2821 “—”) を二つ続けて (すなわち “——” のように) 用いることを推奨する。

[略点] 和文の略点としては、JIS コードの略点 (すなわち JIS の 2144 “…”) を二つ続けて (すなわち “……” のように) 用いることを推奨する。

[スラッシュ] スラッシュとしては、JIS コードの斜線 (すなわち JIS の 213F “/”) を用いることを推奨する。

2. 例示

2.1 注の入れ方

本文中の注記号とそれに対応する注との例を挙げます。——

天気はどうか。昨日は晴れでした [*1]。今日は曇り [*2] です。明日は雨でしょう。

[*1] この点については、見解の相違があります。中には曇り時々晴れだと言う人もいます。
 天気の判断は人によって違います。多くの人に確かめた方がいいでしょう。

[*2] 曇りとは、一般に、雲が出ている状態のことです。けれども、水蒸気の塊である雲が出ていないということは、地球の気候上あり得ません。ですから、厳密には、“曇りとは、雲が出ていないかのように人の目に見える状態のことだ” と言うべきでしょう。

2.2 欧文特殊文字の入れ方

例えば、ドイツ語特殊文字の場合には、下表のようになります。

表 1 ドイツ語特殊文字

特殊文字	ASCII	JIS	LaTeX
大文字のアーウムラウト (Ä)	Ae	—	¥" {A}
小文字のアーウムラウト (ä)	ae	—	¥" {a}
大文字のウーウムラウト (Ü)	Ue	—	¥" {U}
小文字のウーウムラウト (ü)	ue	—	¥" {u}
大文字のオーウムラウト (Ö)	Oe	—	¥" {O}
小文字のオーウムラウト (ö)	oe	—	¥" {o}
エスツェット (ß)	ss	—	¥ss

また、ギリシャ文字の場合には、下表のようになります。——

1) 機種依存文字とは、ここでは、JIS でその内容が定義されていない文字のことを指します。例えば、“○” で囲われたアラビア数字は機種依存文字です。なお、機種依存文字については、“ご注意ください” のページを必ずご覧ください。

表 2 ギリシャ語特殊文字

特殊文字	ASCII	JIS	LaTeX
大文字のアルファ (A)	—	A	Υ {Alpha}
小文字のアルファ (α)	—	α	Υ {alpha}
大文字のベータ (B)	—	B	Υ {Beta}
小文字のベータ (β)	—	β	Υ {beta}

2.3 数式の入れ方

例えば, $y = \sum_{i=1}^n f(x_i)$ について, —

2.3.1 文書的表記法 (例)

y は, 添え字 i をもつ x の関数 f(x) の, 1 から n までの i についての総和に等しい。

2.3.2 JIS (例)

$$y = \sum_{i=1}^n f(x_i)$$

2.3.3 LaTeX (例)

$$y = \text{sum}_{i=1}^n f(x_{i})$$